

2008年度決算説明会  
主な質疑応答

Q1：2005-2006年度に大規模な構造改革を行っているのに、なぜ再び必要になったのか教えてください。

A1：2005-2006年度に実施した構造改革は、デジタルカメラやカメラ付き携帯電話の普及が進み、カラーフィルムの需要は減少するものの、デジカメプリントにより、カラーペーパーの需要は維持できるという前提の下、実施しました。しかし、ここ数年で昇華型やインクジェット等プリントの方法が多様化してきたことに加え、景気の悪化に伴う予想以上の市場の縮小が進んでいます。新たな市場環境に対応し、中長期レンジで企業を維持・発展させるために、更なる構造改革が必要と考えました。

Q2：デジタルカメラ事業ですが、今後採算改善は可能でしょうか？

A2：当社は高画素化、高解像度化、顔認証などを他社に先駆けて新しい分野を切り開き、他社との優位性の差が顕著に出る画質の面では相当な競争力を有していると自負しています。一番の課題であるコスト競争力については、フィルムカメラを製造していたフジノン出身の樋口事業部長のもと、やるべき施策に手を打っています。

Q3：約5,000人の人員削減とありますが、国内、海外の内訳を教えてください。

A3：内訳は、海外が3千数百人、国内が1千数百人規模になります。

Q4：前回の構造改革によりフォトイメージング関係の人員数は減少してきていますが、M&Aを繰り返しているため、結局全社で2,000人~3,000人ほど増加しています。今回の人員削減では全社員数としては減るか教えてください。

A4：全社員数が増えた要因として以下の通りです。

- ・ 生産拠点のシフトによる中国での増加
- ・ M&Aを多数実施
- ・ アジア・オセアニア地域では、富士ゼロックスの販売拠点の強化

今後もM&Aの実施や、中国での生産などで増加する要因もありますが、全体的には減らしていく方向です。

以上